（三日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日の翌日
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料 一行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社

夏の酒と澤庵の味

粗賀吾郎生

「われは夏日の長きを愛す」と支那の詩人は謳つてゐるがこれは負け惜しみではなからうか。甲州恵林寺の豪僧、快川國師はその入寂に際して「心頭を滅却すれば火も亦涼し」のげを殘してゐるが、大悟このわたいで徹底し得るものはさうザラにあるものではない昔から冬寒夏熱、柳綠花紅、世の中の筋道は榭まつてゐる。暑い時には暑い〳〵どいふた方が暑さが少しは薄らぐやうであり、寒い時には寒い〳〵といふた方が寒さが少しく和らぐやうでもある。

「熱時熱殺寒時寒殺」といふ句があるが、夏分などは香の燗れるやうな番茶、江戸前の朝湯位の温度の風呂に飛び込んで一日の汗を流すなど金で買はれぬ樂しみである。肥後の熊本などには夏分はおかみさん連中まで燒酎をやる、大阪の道頓堀の丸萬の樓上熱燗で沖すき、フウ〳〵いひながら淋りたる流汗の裡に夏の眞趣を体得してゐる者も少くない。淺草の米久などで肉の最後の一片が牛鍋に焦げつくも知らぬ氣にビールの盃を引きながらとぐろを卷いて天下國家を論ずる者も數多い。「熱時熱殺」の好標本である。しかし日本酒の燗も好ましからず冷酒は頭に上がるといふところに眞夏日本酒に對する惱みがある。

これが對策としてこゝに日本酒をうまく飲む方法がある。先づ日本酒を熱燗にする、文字通りの熱燗にある、その口を栓を以て密閉して井戸水で冷す。德利の首を紐で結んで井戸の中に下げる方がなほよろしい。冷藏庫に入れるは更に可。山間溪流に沈むるはなほ趣きがある。大よそ冷たくなつた時に取り出して小さい皿でチビチビやる。盃は九谷のやうに美々しい、くどい色彩のは好ましくない備前燒きのやうに沈んだ色合のもまた面白くない、京燒きで而も藍繪の薄手のものに限るやうである。此酒の名を何といふか私は知らない、冷酒の文字を用ふればひやざけと讀まれるおそれがある立食よりつしよくと讀むといかめしく聞える。たちぐひと讀むと細暖簾を連想させる、假りにこの酒を靈酒と呼んでひやざけと區別する靈は冷に通じ、たましひに通ずる

節約を趣旨とする好下物二三、先づ紫蘇卷き、坊間呼び賣りするやうな味噌すつたのはいけない。味噌はそのまゝを中に番唐辛しを堅く四つに割つたのを入れる味噌そのまゝでべたつくそれのある場合はほんの少しばかりうどん粉を此するも亦可、青紫蘇の葉を採んでこれを包み、胡麻油で靜かに之をいためる。續いてきうり。茄子の糠味噌漬である糠味噌の製法はこゝに說くまでもない。秘訣は糠を煎つて之をよくビールを以てすると味が格段に違ふ、ビールの醗酵が糠に作用するのであらう。聊か贅澤の感がないでもないが糠味噌の恒久性に想到するときはその一本や二本は何でもない事になる。又

芳醇無比
白馬の雪
松本德一吟釀
電話(平)七五二

明日の吉凶
新曆八月四日　舊曆六月二九日

△一白 慾に心を奪はるゝときは虻蜂取らずとなる△二黑 十分と思ひし事も先方より外れ來り易き日△三碧 尻りの落付く日企業開店名弘め何づれも大吉たり△四綠 志操堅固なれば活氣も從つて生じ來るべし△五黃 世話事多くとも誠を近むれば無事に解決す△六白 浮か浮かと動き廻れば骨折り損となるべし△七赤 人の言を能く噬み分け取捨應否を決すべし△八白 變化激しき日なる故心を散らさぬ樣すべし△九紫 心忙しければ成るべき事も破ることあり

小說 死を超ゆる者 (54)

三上於菟吉作　布施平八郎畫

友情（二）

死者の死體が解剖されると、死因は腎臟病から來た心臟痲痺だと云ふ事か解つた、而し其の痲痺が其夜勇と格闘したのがもとで起したのかそれとも偶然の發作であつたのかそれは醫師にも見分けられなかつた

とは言へ勇が事件のあつた翌日前非をくいて直に自首して出たと云ふ事は豫審判事の心證をよくした、また彼の陳述にはよどみがなかつた

彼はどう云ふ理由でもの ような大金が必要であつたか、それに就ては一言も云はなかつたが、何分年若い富豪に育つた大學生である彼であるから、それ位の金はちよいと何處のあばずれ藝妓か何かにたらされて持ち出し兼ないようにも考へられた。堅い青年程、どうかした調子でいけなくなるといふ樣な、平凡な常識は峻厳な裁判官の胸にも宿つて居た。

それに何よりも眞面目で優雅な勇の人柄が當局者の同情を惹いたにも依らう、存外手早く豫審は濟んだそうして判事は或る法律家を通じて江馬家の遺族に問題として殘されて居るはあの竊盜事件であるから、此際取下げては如何か當局は家庭内に起つた出來事を何處までも追求する必要を認めないかも知れないと言ふような事を助言さへしたのであつた。江馬夫人は一際ヒステリカルに勇を呪つて居た

彼女は肉を食つても飽きたらないやうであつた、而し岡田男爵其他の忠言は彼女の冷靜を恢復さした、それに彼れはせまい女氣で自分たち夫婦が他人の子の勇を僞籍して嫡子として居たことが公になるのを恐れた

それでその事は彼の女の饒舌を押へたので幸ひに勇と、とき子の關係は世間へ聞えずに濟んだ、彼女はたゞ自分が生した、可愛順造に江馬家の財産を相續させられゝば滿足だと思つた

勇は廢嫡すると云ふ條件で免訴の出願を承諾した

未決監に憂鬱な日を送つた勇は而し明るい世の中へ出る事をさ程喜んでも居なかつた

彼は元氣よく彼れの出獄を歡迎しようとする友人達の好意をさへこばんで櫻木家の和子から遣はされた使者だけに出迎はれて監獄の門で其勇に別れると只一人何處ともなしに身を隱して了つたのである。

「あいつも而し、可笑しな奴さ」と高山は思ひ出した樣に云ふのであつた

「僕たち、だけ位に居所を知らしてもよさそうなものだ」

村越は答へなかつた、彼は袂からひしやげた朝日の紙袋を出してぐにや〳〵の卷に火を點けた。

「櫻木夫人もあんなに安じて居るのに……」

と高山に言葉を續けた

「和子さんは、あんな窮屈な身の上でありながら一週間と置かずに僕たちを尋ねたり、使をよこしたりして其の後何とか便りはないか何か聞き込んだ事はないかと云つて來るのに……僕達は親友だと思へばこそ、江馬の身の上を一切打ち明けて呉れたのだ」

吉田眼科醫院

內臟外科 骨關節外科 整形外科 專門 藤本順
產人科 婦人科 院長 木村寅次郞
平町新川町
外科 婦人科 木村病院 電話一六四番

御中元御贈答品には
贈るに御便利 受けに御重寶な
三井の商品券
三井呉服店

內科診療
消化器病科 呼吸器病科
小兒內科 一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊內科醫院 電話一六一番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ 生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥舖 たはなし三番

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）
電話一一四番

改正 片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時[illegible]分
十二時[illegible]分	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば 四丁目和泉屋前
新川町車庫
江名のりば 沖見屋 電話十四番
松屋
鈴木片濱自動車部 電話二一七 車庫呼出 電話一四二

內科、小兒科 花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平局五〇七番

生地の良い仕立の丁寧な
小供洋服

二、三歲用	五十錢
四、五歲用	六十錢
六、七歲用	六十錢
八、九歲用	七十錢
十一、二歲用	八十錢
十二、三歲用	九十錢
スポーツ衿 十四、五歲用	一圓三十錢
家庭用 婦人服	一圓五十錢
ロンパース	五十錢

洗テハゲズ
日ニモヤケズ
平町田町 篠田女學校隣
ハシモトヤ糸店

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

レコードハ此のマーク！を
肉聲のビクターレコード
販賣店 會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門 日本醫大醫學士院長 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科醫學士科長 高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番
サシミ

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會 一等賞受領
花春 同 優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋
山崎合名會社
電話一〇番

九十度を越す炎天 猶ほ續く見込
地上の百物枯死の狀 平町地方の苦熱

炎暑九十七八度を往來する旱天依然として續いて行く七月中の天候は殆んど干つくされた天候であつたがそれでも雨のあつたのは四回それとてもほんの土をしめした位のもので何の足にもならなかつた。正に一の殺人的旱天は一ヶ月餘に亘つて續いてゐるわけである更に溫度は七月十四日が今夏今までの最高レコード水銀は九十八度六分といふ激暑を示した。今や旱天悲鳴は各地に起り農作物瀕死の狀態にある者の此かん天が今後一週間も續けば恐るべき災害を招來するであらうと農村地方で極度怖れてゐる

そこで果して近いうちに雨がくるかどうかと現在の氣壓狀態について見ると目下颱風がサラ島の南方にあつて滯留しそれから分裂して低氣壓が小笠原の方面にあつて北へ進んでゐるが若し望みがかけられるならこの低氣壓を頼りとするより今の處それらしい雨雲は全然ないと云つてよい、高氣壓は依然全日本を覆つて根強く頑張つてゐるので暑氣は九十八度を往來して折角頭を出して來た颱風を寄せつけずに追つてゐるそこで先づ幾分はこの暑い〳〵天候がつゞき處によりては雷雨かなるやのものと思はねばならないと測候所でも消極的な觀測を下してゐる

相當の曲折もある 平と小島の合併
內郷當局の承諾如何 平市制準備急ぐ

平町が市制實施の前提とも見られる石城郡內郷村大字御臺境字新町部落を合併すべく、目下交渉が進められてゐる事は旣報の如くであるが合併をつたへられる新町は約三十戸程で內郷村からは厄子橋を隔てゐるが平町とは近接して居り、殊に上水道使用、郵便の集配等の關係、更に地主が平町日澤易興、堀江正直兩氏たる點から見て合併は案外簡單に進むものと見てゐる者もある而して一部合併せよ內郷村當局が承諾せねば成立を見る事が出來ないが、この問題について內郷村では平町と接續してゐる部落から新町は內郷村に於ける一等地としての標準を置き各種税の賦課をしてゐるので若し同所を平町に合併すれば新に村內に一等地を物色せねばならず、賦課の公平を確立するうへに於て

支障が多いから村〆しては平町との合併に贊成出來ないものゝ如く語つてゐるのでこの一部合併交渉は簡單にはきまらないものと見られてゐる

金森內務部長 石城巡視

金森內務部長は昨報の如く四日から三日間の豫定で石城地方の初巡視をするが其の日程は四日午前八時出發夕刻小名濱到着一泊翌五日午前十時頃郡農會の統計講習會發會式に臨席の後小名濱商港水產試驗場、小名濱、豐間等の各漁港を視察し同夜も小名濱に一泊の上六日早朝同地出發午後零時二十一分郡山着各製糸場を視察をなしたる上同夜歸廳の筈

脫營兵が 平町を徘徊
今日平署に逮捕

平町南町カフエー三笠亭附近を三日午前三時頃平署猪狩刑事が密行して來るとビール瓶を背負つた男が逃げる樣に同町路次に逃入つて行くので誰何したるに荷物を投げ付け逃走するので引捕へ本署に同行取調べると東京市京橋區月島東仲通り生往所不定前科一犯中川音一(三六)と言ひ二年前歩兵第一聯隊に入營し逃亡を企てたので懲役一年二ヶ月を喰ひ其の後平町地方を徘徊しゐたもので同夜は三笠亭袋口から空瓶二十四本を窃取した事自白したが餘罪ある見込みで取調べ中

足の不具を悲觀し 川前驛附近で
鐵道自殺を企てた 大野村生れの青年

石城郡大野村大字山小屋田邊順平(三二)は數年前より東京に於て洋服仕立を習つてゐたが一日突然川前驛前仲屋旅館に投宿し同日午後九時頃湯上り一枚で外出し同村江田信號所附近で折柄驀進してきた上り貨物十時二十分川前驛發の列車に飛び込み自殺を遂げた死の原因は判明せないが或は同人は生れつき足が惡いためこれを悲觀して死の途を急いだものと言はれてゐる

自動車事故に 取締りを嚴重

縣下一の平署管內の自動車事故は毎年縣下でも一位を占め當局も惱してゐるが最近海水浴客や避暑客を輸送するので道路は自動車の列をなしてゐる狀態で全く往來は混亂してゐる。之に伴ひ各當業者の競爭も激烈を極めて往々の事故が醸され追突、轢殺は年中の如く頻發して月に數件を下ることなく往來の通行も滅多出來なくなつたので事故防止策として車体の檢査速力の一定を計り各運轉手には嚴重な訓示を與へ當業者にも夫々嚴達するところあつた

平驛前人力車 詰所が移轉

平驛前にある人力車詰所は交通上や風致の上からも好ろしくないので近く取締ひ驛使所傍に移轉す筈で尚廣場の電燈の柱二本も取拂ふ事になつた

又轢いた 亂暴自動車
ノブ子さん瀕死

平町田町自動車部運轉手西山盞(二二)は二日午後七時頃四倉町に向つて疾走中立町道路に差蒐ると附近で遊んでゐた同町鈴木某の二女ノブ子(七)が突然飛び出して前車輪に引倒され足部其の他に重傷を負つたが平署では鯨岡司法主任以下臨檢取調中である

郡下の冥虫被害 益々漫延の兆に
農民極度に憂慮 驅除は拔取法

石城郡內の稻作は天候の順調に發育頗る好く田の草取を行つてゐるが毎年發生する稻の寄生虫一名ヅイムシ冥虫は今夏に這入つて全郡にひろまり殊に小川村關場の一部は被害多く防止策を講じてゐる縣出張橋本農林技師の調査に依ると今年の冥虫は特に多く發生し郡下一帶に亘つてゐるもので之が驅除法としては虫害のある葉を拔き取。赤色に變つた葉は極度 虫害の進んだものだから莖より切り取るべし尚八月中旬頃は該虫の二化目の幼虫が發生するので一層激甚な被害を極めるから今のうち拔き取りを勵行しなければならぬ而して虫害田の收穫高は反で約二斗乃至三斗の減收を來す事がある

農產物品評會

石城郡草野村馬目青年團では二日午後一時より同村寺院內に於いて玉葱、馬鈴薯の品評研究會を開催した終つて橋本農林技師の水田、農業一般の經營に就て講演があつた

キャムパーの手記
──新舞子天幕村生活──

松本純一

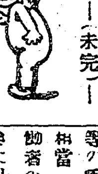
第一夜──

夏井川の河口、磐城舞子の左胸あがりにうすつかり準備された天幕村が二列横隊に並んでゐた、級三十餘の小型テントが三色すみれの色彩を映して白砂を孝樹とにぬりこめられてある私はまず水色のほの明るいテントに身を横たへて砂掛をもり上つてくる波浪の激しい跫音を聽く、眠つとこめてゐたのでやかな呼吸がはつきりした氣持を捉へて了ふ、たるきに板をひきつめてシーツをふせ、その上へ毛布が敷かれるのだ、そしてテントの兩袖をしぼれば颱風を呼んで爽快な感情を豐かにすることができるキャムパーの群れは主としてヤング。アンが多い、それだけ斯ふした簡易生活の表白を讀みとれない者には單なる安價な終着しか覺えさせないかも知れない、雷氣を含んだ空にひとすぢの健康こそ心高く感じられ私はぼうふうを踏んで砂濱へ出た、急激な波調を見せる新舞子の浪打際だ、その音と律動はいつぱいになりがちなこゝろを眠ませ、快く洗つて呉れる、いつとはなしに夜が訪れる、飯盒を提げて去來する人達が幸福そうに砂地を嚙んでゆく、かゞり火を焚き夜の天幕村の黨れる園を祝福するはずだつたがそのいとはしい火華は遂にみられなくその奔放なヴイジョンもまた窕しく互減し合ふ夜氣の帳りに更けて了ふ、それにしても夜の觸手は海をして自分らに語らしめてくれるのだ、あのまつくらな渚から溢いてくるひとつひとつの呼び聲はなんであらう、私は朗らかな哀傷の譜をそろへて天幕內に蠟燭をともしたのはそれから間もなかつた

第二夜──

耳元で砂のこぼれる音が私を醒した、疲勞のまんま靜かな砂丘にたつた──まつすぐにのぼらうとする燃ゑたの太陽、海面に紅い路を引いて渚ゝ脈へ美しい斑點をにじませる、その輝ける兩手は素直に私を漁つて──あゝ、遂に洗禮。仰げば白ちやけた小さな弦月が沖天に濃く浮いてゐた、朝餐を終へてから自炊に就て考へさせられた、自炊といふ事が極めて自然に成功するだけで既に自分らが欲求しつゝある幸福を感じたことになる、このキャムパー自身が行つてゐる『幸福を搜せ』といふモツトーはその見求と動作と感情のそれらが各々自然になされる生活線に牛盲するものでなければならないと思へた、この自炊生活──と言ふよりは簡易生活に於て自分自身をよく知る事が大きな義務ではないかと感じられた。晝頃、地曳があるといふので濱邊へ出る、ゆつたりしたテムポ、斜向きに移すさりし乍ら綱をたぐつてゆく一線のリズムは俯ひあがつては孤を描き波濤、どつかでヒユウと引き裂かれて崖ける鏡たひが澤山とれた蚊はそう五月蠅くも思へなが蠅のおびただしい蟠居にはたどろく、よる、松樹の散策して松のしづくを雨ふのやうに覺えた、夜霧の淀んだ向ふに豐間燈臺のひかりが間斷に遮切つて鈍

──(未完)──



偉大二個の存在 新興古河の
下野所長 湊谷經理係長

大古河の好間鑛業所長として幾百萬の豐庫を預る下野十朗氏は天性沈勇寡言、豪膽磊落にして小事に拘泥せず然かも人を容れるの雅量あり、果斷流れる如く經秀無比の手腕家である

明治二十一年岐阜縣稻葉郡芥見町に孤々の聲を揚げ郷校を卒ゆるや京都理工科大學採礦科に入學大正二年七月同校卒業と同時に古河鑛業に入社し足尾鑛業所に勤務すること約十ヶ年に亘り社業の實蹟大いに見る可きものがあつた

殊に新進の氣宇に富み學理の研究怠らざる氏は足尾勤務中蘇鉛の研究に沒頭し遂ひに一大成功を收め年額約三十萬圓を輸入してゐた蘇鉛を容易に生產補給するの一大發見を遂げた事は啻に古河鑛業の利益のみならず我が斯界への偉大なる貢獻として推奬され更に幾多の研究を加へ蘇鉛に關する博士論文の起稿中である

斯くの如き熱心燃ゆる如き氏が正に本邦鑛業界の重鎮として重きをなすに至つたもの決して故なしとせない

大正十五年十二月好間鑛業所長に拔擢されて以來業蹟大いに見る可きものあるが更に同所長を補佐し常に社業ノ隆昌に專念する事に經理係長湊谷定次郎氏の偉大なる存在を否む事は出來ない

氏は香川縣高松市の產にして早大商科に學び卒業後丸龜步兵十二聯隊に入營少尉に任官歸鄕後明治四十五年古河鑛業に入社し大正四年八月白井家の經營たりし好間炭礦が古河鑛業の手に移るや係長として赴任五ヶ年を經て東京本社に榮轉し九州西部鑛業係長を經て大正十四年十二月好間坑が彼の水沒、大災害に遇ふや復活の重任を負つて再び來任した人である

爾來四ヶ年殊に寢食を忘れて努力せる結果遂ひに大古河好間鑛業所再興の現况を見るに至つた其の間の精勵と功績とは實に常磐鑛業界史の一頁を飾るに値するものがある

周到着實なる超群非凡の頭腦と透明徹底せる才識を以て事に臨み俠義心に富み自ら德を以て範を示す、故に部下の尊敬頗る篤く人格的手腕家の名を恣まにしてゐる、此の所長の下に此の係長あり實に古河好間鑛業所の双璧として敬重される素より偶然の事ではない

暑さの爲めに 飲料店は大多忙
就職口も增した 平職業紹介所

平町の景氣を覗いて見るに幾分好識になつて來た夏になつただけ氷水屋、果實屋等の季節的な商賣が增えて相當な景氣を舉げてゐる勞働者の土方、日雇も天氣續きに仕事もあるらしい相變らず寂れ行く人力車の需要は益々自動車に押され氣味でこゝばかり愚痴たら〳〵の態である、而して不景氣の祟りの樣な失職者の群は最近また多くなつた因に平町職業紹介所の七月中に於ける求職者は合計五十一名內女九名の多きに達しこれに反し求人の申込みは四十三口でこの內の就職者は三十一名あつたが前月に比べで何れも多かつた就職口は工方七名、坑夫五名、女中六名、其の他で同月は人の動きが多かつた

東北農產評
石城より出品五十點

石城郡より今秋宮城縣主催で仙臺に開催される東北六縣及北海道の農產物品評會に出品する果樹類は左記四十三點と決した

內郷十點、赤井辰ノ內石點、好間村北好間十五點、平窪十五點、大野三點

天水桶奉納

平町南町岡田長太郎氏は三日縣社子鍬倉神社へ奉納する天水桶(鐵製)二個が完成したので三日町內を練り廻り同社前に於て山部神官執行のもとに奉納式を擧げた

兒童職業指導
けふ平で講演會

石城郡教育部會主催の兒童職業指導の講演會は二日午前八時から平第一小學校講堂に於て開會各小學校長、職員で東京市社會局囑託谷口治秀氏の講演あつて三日は平町職業紹介所で新らしく購入した性能器の取扱方法の説明があつた

かみくづ

◆弱い者同情して◆藝者に抱へ主との契約まで干渉するのは結構な事だが、お陰で藝者の鼻息があらくなつて來て、不景氣の今日にた腫物の上をなぐられるようなものだ、と置屋のクドイてるのはエゴイズムばかりでもないようだ◆働きのあるのは前借をツイて住み替るし、殘つてるのは借金が出さあつて食ひふちと税金も稼げないで、どうにも動きが取れないのが、泰然として大きなしりを落ちつけて居るんだから、全く遣り切れませんよ◆藝者なんざあ、水物だから三人に一人當れば上等でどうにか外の埋合せが付かうといふもんサア、まるで富籤を買ふようなもので、運プ天プですよ、それが賣れそうなのを精算勘定で扱かれた日にはたまりませんや。

釀造元 清酒 世界 吉 清水屋
石城小名濱町 小野晋平
銘酒 各炭鑛御用達
電話六番

開業披露
齒科 口腔外科 齒科一般
平町古鍛冶町八八(平公園北入口)
神谷齒科醫院
日本齒科醫學士 神谷辰夫

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金 六十五錢
◎日本デ一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ㋡ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金 貳 一圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 ㋡阿部石炭商店
電話二三七番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一 (電話五五九)

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番